



英国滞在のしおり

学生のための英国情報パンフレット

English UK 社の英語学校・大学等は、ブリティッシュ・カウンシルによって審査かつ認定されていますので、授業、校舎、事務、宿舎、厚生のすべての面で高い水準が保障されています。

このしおりには英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、日本語、韓国語、中国語、ロシア語版があります。

目次	ページ
A. 出発前に	3
B. パスポートとビザ	3
お金	3
保険	3
天候	3
ホームステイ	3
C. 英国到着時	4
入国審査	4
税関と持ち込み禁止品	4
空港からの交通	5
D. 英国での暮らし	5
英国の文化	6
両替	6
貴重品	7
通信	7
交通	8
娯楽	9
飲食	9
健康	10
身の安全	10
困った時、緊急の場合	10
D. ホームステイ	10
個人の部屋	11
暖房と照明	11
食事	11
生活上の注意点	11
来客・訪問	12
留守にする時	12
契約解消（または変更）の場合	12

A. 出発前に

パスポートとビザ

ほとんどの学生は正規のパスポートが必要ですが、EU 加盟国からの学生で 6 ヶ月以内の滞在予定の人は、身分証明書で代用することもできます。国によってはビザや入国証明書が必要な場合もありますので、理旅行代理店か、あなたの国にある英国領事館か大使館、高等弁務局に問い合わせて何が必要かを確認して下さい。英国に学生として入国できるよう、事前に「認定書」をもらうこともできます。その申し込みには、学校からの入学証明書等の書類が必要です。学校は通常入学手続きが済み、デポジット(前払い金)が支払われた後で、この入学証明書を送付します。ビザに関する詳しい情報は

UK Border Agency Visa Services: www.ukvisas.gov.uk から入手できます。

お金

英国では国内に持ち込む金額に制限を設けてはいませんが、国によっては通貨持ち出しの際に為替管理局の許可が必要な場合もあります。時には送金の手続に 2 ヶ月以上もかかることがあるので、出国する前に時間的余裕を持って銀行に相談して下さい。事前に授業料と宿泊費を納めていない場合は、到着後すぐに学校から費用の全額または一部の支払いを請求されますので資金の準備がないと問題になります。この資金の有無を証明する書類を持参して下さい。入国審査官に提示を求められる場合があります。又、旅行に必要な現金は持参して下さい。ただし、大金は持ち歩かないように。紛失したり盗難にあう危険性があります。

ほとんどの学校はコースが始まる前、又は申し込み時に支払いを要求します。送金の方法には色々あり、銀行手形、国際為替、英国ポンドまたはユーロのトラベラーズチェックが使えます。銀行振り込みで支払う場合は合計金額に送金側と英国内でかかる手数料が含まれるようにして下さい。どの方法が適切であるかを学校に確認して下さい。

保険

あなたの国と英国の間に医療相互協定が交わされているかどうかを調べ、十分な額の健康保険を掛けて下さい。持ち物の盗難、紛失、破損に対する保険も掛けて下さい。もし可能でしたら、短期間で英語コースをキャンセルせざるを得ない場合の保険もお勧めします。

天候

英国の天候は夏でも変わりやすいので、暖かいセーターとレインコートを準備して下さい。冬はオーバーが必要です。

ホームステイ

学校がホームステイ先を予約して住所がわかっている場合は、ホストファミリーに短い手紙を書き、何時どのようにして到着するかを連絡しておきましょう。

例：

Dear Mrs/Mr/Ms

The centre has told me that I shall be staying with you. I am flying to airport on flight number arriving at (time) on (date). I will continue my journey by train/bus/taxi and expect to arrive at your house about (time)

Yours sincerely,

...

B. 英国到着時

入国審査

入国審査官から色々な質問を受けるでしょう。滞在計画や、どの学校で勉強する予定か、経済面などの質問に明確に答えて下さい。学校に入学が認められていることや、本人とその扶養家族が滞在するのに十分な資金を保持している証明書を係官に提出しましょう。係官が知りたいのは、あなたが週 15 時間以上のコースに出席する意志があり、コースが終了したら英国から出国するかどうか、です。

もし問題が生じたら入国審査官に学校に電話するように頼みましょう。また入学手続きを未だしていない場合は、学生としてではなく観光客として入国を認められ、パスポートに滞在許可期間を示すスタンプを押されます。より長く滞在したい場合は期間が切れる 1 ヶ月前にホームオフィス（入国管理局）に滞在期間延長の申請をします。この際、きちんと授業に出席している学生である、という証明書が要りますので学校に申し出て下さい。またホームオフィスに、滞在に必要な資金があることも証明しなければなりません。

2002 年に教育・職業訓練省が英国内で働く学生のためにパンフレットを作成しました。これはインターネット www.dfes.gov.uk/international-students/workleaflet で入手できます。また、パスポートに警察に登録する必要があるというスタンプが押されているかどうか確認して下さい。もし、登録が必要であれば学校に着き次第手続きして下さい。パスポートサイズの写真が 2 枚と手数料が必要です。

ホームオフィス 入国・国籍管理局の住所 : Lunar House, 40 Wellesley Road, Croydon CR9 2BY, tel. 0870 606 7766 (ロンドンの中心部から約 16km)

税関と持ち込み禁止品

質問に正直に答え、自分の持ち物だけを持って来ていれば、英国の税関では全く問題ないはずです。ヘロインやコカイン、大麻などの麻薬所持は違法です。ナイフ、ガス銃、その他の武器は自己防衛のためであっても**持ち込まない**で下さい。これらの殆どが法律により禁じられています。厳しい狂犬病規制のため、ペットを含むあらゆる生き物の持込が禁止されています。

空港からの交通

学校から、空港や港から学校までの交通路案内が届きます。空港から市の中心までのような長距離移動にタクシーを使うのはとても高いので避けましょう。通常、最寄の市街地までバスの便があります。もしタクシーを使う場合には、無許可の業者に注意し必ず認可を受けたタクシーを利用しましょう。

C. 英国での暮らし

英国の文化

・ 政治

英国内には3つの別々の国があります。イングランド、ウェールズ、スコットランドです。これに北アイルランドを加えた4カ国で連合王国(ユナイテッド・キングダム)が形成されています。各国にはそれぞれ独自の性格と特徴があります。

英国の住人は、特に大都会では、多様な文化背景を持っています。これは英国が政治難民や、より良い仕事・教育を求める移民達を受け入れてきたからです。

女王は国の主ですが、全ての法律は2つの議会(上院と下院)からなる国会で作られます。上院には下院ほどの権力はなく、法律を改正したり変更したりすることは殆どありません。

国会には主な政党が3つあります。労働党、保守党、自由民主党です。

・ 文化特性

イングランド人は特に「取っつきにくい」性質であると言われます。これは公の場では無口で感情を内側にしまって置きたがるということです。例えば、バスや電車の中では普通、見知らぬ人同士では話をしません。英国人の行動で奇妙に思える面もあるでしょう。自分の文化の中で身の回りの出来事が簡単に理解できる時は安心していられます。これが他の国の人達を自分の物差しで計ってしまう結果を招き、偏見や定型化した考えをもたらすのです。英国で時間を有意義に過ごすには心を広く持つことが重要です。

・ カルチャーショック

カルチャーショックは新しい仕事や別の環境に馴染もうとしている時の気持ちと良く似ています。ただし、もっと強いものです。全てが(言葉を含めて)目新しく、混乱し勝ちで、新しい環境と折り合うまで気分や態度の変調を経験するものです。

この疎外感とは、例えば、なれない食べ物や日課の違い、交通手段の違い、慣れない公式手続きなど、どちらかと言えば些細な出来事で引き起こされることがあります。これが言葉やファミリーライフの根深い文化的相違によって悪化するのです。

多くの学生は初めは新しい文化に対し積極的で興味を持っています。しかし、深い文化の違いという現実が分かって来るにつれ、この興味が薄れていきます。そして自分自身と新

しい環境に疑問を抱きはじめると共に友人や家族、祖国を懐かしく思い始めるのです。

違いに思い悩むべきではありません。「取っつきにくい」のは不親切ということではありません。殆どの英国人は、あなたが困っていたり情報が必要な時には喜んで手助けしてくれるのですから。

・ 言語

あなたが自国でどんなに上級レベルの英語力を持っていたとしても実際に話される英語を理解するのは難しいかもしれません。ずっと英語を聞き続け、話し続けるのは大変疲れることです。疲れている時や他の人が早く話しすぎる時などは誤解や間違いが起こりやすいものです。思うように会話に参加できなくても苛々したり落ち込まないように。外国語を一日中使うのは大変な努力が必要で、時には過酷な経験とも感じることでしょう。これは全く普通の感情で、慣れるにつれて必ず改善されてきます。

両替

現金やトラベラーズチェックの両替は銀行でするのが一番良いでしょう。(大きな空港には少なくとも1軒、どの町の大通りにも数軒はあります。) また、大きな旅行代理店で両替所を設置しているところもあります。小さな外貨両替店や「マネーショップ」での両替は、レートが良いように広告していても高い手数料を取るのが普通ですので避けましょう。

6ヶ月以上滞在する学生は、銀行やビルディング・ソサエティ、または郵便局で口座を開くことが可能です。銀行やビルディング・ソサエティで、どのタイプの口座が良いか相談しましょう。銀行の営業時間は限られており普通午後4時ごろには閉まる事を忘れないように。

ビザやマスターカードなどの国際的なクレジットカードは殆どの店で使えますし、カードの使える学校もいくつかあります。

・ 硬貨と紙幣

通貨は十進法で、1ポンド (£) は100ペンス (p) です。

・ 付加価値税 (VAT)

一軒の店で100ポンド以上の買い物をした場合、税金の返還を申請できることがあります。店員に詳細を聞きましょう。

貴重品

自分の所持品には常に気をつけましょう。貴重品は置きっ放しにしないように。多額の現金は持ち歩かないこと。パスポートは持ち歩く必要がありませんから家においておくのが良いでしょう。その代わり学校が発行する学生証を持ち歩く事をお勧めします。

通信

・ 郵便局

切手は主に郵便局で売られていますが他の店でも扱っているところがあります。外国への手紙には全てエアメールのシールを貼らなければなりません。問題があったら学校に相談して下さい。ヨーロッパ以外の国に手紙を出すときは航空書簡（エアログラム）のほうが普通の航空便より安上がりです。

- 電話とファックス

公衆電話を利用するのがもっとも簡単でしょう。ホームステイ先の自宅の電話は許可なしに使ってはいけません。たとえ市内電話でも使用したら料金を払いましょう。英国内の通話は午後 6 時以降と週末に安くなります。国際電話を掛けたい場合には、相手払い(コレクトコール)にするか、電話を掛け終わった後に交換手に電話料金を聞きます (ADC)。

国際電話交換手の番号は 1 5 5 です。国際電話は午後 6 時以降に割安になります。普通、郵便局では電話は掛けられませんが、公衆電話はあちこちにあります。コインで掛けられるタイプ、クレジットカードで掛けられるタイプ、それからテレホンカードで掛けられるタイプがあります。テレホンカードは多くのお店で売られています。これらは学割の料金で通話でき、ホームステイ先の電話でも公衆電話でも使えます。殆どの街にはファックスやテレックスを送ることができる店があります。

交通

- 公共の交通機関

毎日、学校まで電車やバス、地下鉄で通う人は駅で定期券について問い合わせましょう。長期、短期、観光用日帰り、学生割引などが利用できることがあります。パスポートサイズの写真を数枚余分に持っているとき切符を買う時に役立ちます。26 週以上のコースの学生は国際学生証 (ISIC) をもらえます。詳細は学校に問い合わせてください。旅行前に ISIC カードを入手すると往路の切符から割引が受けられます。

- 車の運転

英国の公道で 17 歳未満の人が車やオートバイを運転するのは違法です。50 c c 未満のモーターバイク (原付) は 16 歳以上なら誰でも運転できます。オートバイやモーターバイクに乗るときにはどんなタイプのものでも、また乗せてもらうだけでも、ヘルメットをかぶらなければいけません。また、交通規則を知っている必要があります。(交通規則集は殆どの新聞店で売っています) また、英国では**左側通行**だということを忘れないで下さい。

英国滞在の最初の年に車を運転するには国際免許証が必要です。それ以上長く滞在する予定でしたら、この国で運転試験を受けなければなりません。学校に自動車保険と免許に関する法律について詳細を問い合わせして下さい。

普通レンタカー会社は 25 歳以上の人にだけ車のレンタルをします。

公道の端に 2 本の黄色い線があるところは絶対に駐車禁止です。黄色い線が 1 本の所は決まった時間帯 (時間は近くに表示されています) に限り駐車が許可されています。

英国では乗車中は常にシートベルトの使用が義務付けられています。

注意深く運転し、制限速度を守りましょう。殆どの市街地での制限速度は時速 30 マイル (48km) で、自動車専用道路では 70 マイル (110km) です。

飲酒運転は禁じられています。とても危険ですし、英国では飲酒運転に対する刑罰はとても厳しいものです。

事故に巻き込まれた場合は警察に届け、名前と住所を相手の運転手と交換しなければなりません。英国では自動車保険を掛けることが義務付けられています。

- 自転車

殆どの街で自転車を借りることができます。学校からアドバイスを受けて下さい。英国では自転車に乗るのには免許証や保険は要りません。ただし 16 歳未満の学生は両親が許可した旨の文書が必要です。自転車にも交通規則が適応されます。

安全で目立ちやすい服装をして下さい。ヘルメットをかぶるのも良いことです。暗くなってから自転車に乗る時には必ずライトをつけるようにして下さい。

大勢のグループで公道を走らないで下さい。とても危険ですし、他の交通の邪魔になります。

娯楽

地元の娯楽の情報は地方紙や雑誌、ツーリスト・インフォメーション、また最寄の図書館で入手できます。あなたの学校にも学生のために特別に企画されたソーシャル・プログラムがありますし、近郊でのアトラクションの詳細も教えてくれるでしょう。

- スポーツ

近郊のスポーツ施設の情報も学校で入手できます。

- 観劇とコンサート

開演の 10 分前には着くようにしましょう。遅れると、おそらく休憩時間まで着席が許されません。席への案内係の人にチップを渡す必要はありません。会場は禁煙です。

- 映画館

映画館でもチップの必要はなく、禁煙です。

飲食

- パブ(パブリック・ハウス)へ

パブは英国の名物で、小さな「地元の」パブから大規模なものまで色々あります。主に冷たい飲み物(アルコール飲料と非アルコール飲料)を出しますが、時々コーヒーが飲めるところがあります。殆どのパブでは軽食やサンドイッチなどもあり、暖かい食事やサラダも手頃な値段で食べられます。パブにはウェイターやウェイトレスがいませんので、飲み物と食べ物はバーで注文し、その場でお金を払います。14歳未満の子供はパブに入れません(子供が遊べる庭のあるパブもありますが)。18歳未満の人にはアルコール類は販売できません。

- ワインバー

ワインバーではワインしか販売しません。グラスかボトルで売り、普通、食べ物も良い物を出します。「パブ」よりも高価ですがおしゃれで、落ち着いて談話をするのに快適です。

- カフェとスナックバー

これらの店ではアルコール類は出さず、値段も安価です。きちんとした食事をしたければ**レストラン**へ行きましょう。前もって予約が必要なレストランもあります。レストランでのサービス料は勘定書きに加算されている時もありますが、そうでない場合は請求金額の10%を加算するのが習慣になっています。

- テークアウェイの食事

レストランの中にはテークアウェイ(持ち帰り)が利用できるところがあります。英国ではインド料理、中国料理、イタリア料理など幅広い種類の食事が楽しめます。

健康

以下の場合、国民健康保険(ナショナル・ヘルス・サービス)が無料で受けられます。

- 6ヶ月以上の英語コースを登録した場合。
- あなたがEU諸国の国籍を有する場合。
- 英国とあなたの国の間に医療に関する全面的な相互協定が結ばれている場合。

もし、このどれにも当てはまらず(伝染病以外の)入院治療を受けた場合は治療費を払わなければなりません。ただし、緊急の外患治療は無料です。最寄の医者にかかったり往診してもらった時も診察料がかかります。6ヶ月以上のコースに申し込まれた場合は、NHS(国民健康保険)の制度により、滞在中に発症した疾病、持病が悪化して緊急措置が必要になった場合、事故にあった場合のいずれも無料で診察、治療が受けられます。自国を離れる前に妊娠していた場合は緊急措置以外は有料です。診療が無料の場合でも、薬代の一部は有料です。

- 医療保険

保険を未だかけていない場合、またはあなたが非協定国の出身の場合には、多くの学校で医療費の一部または全部を補償する保険を掛けられるようになっています。

- ・ 歯科治療

歯科治療が必要な場合には、ほぼ確実に治療費全額が個人負担となります。

身の安全

夜遅く出歩く時は一人で歩くのは避け、誰かと一緒に歩きましょう。人通りが多く、良く照明されている通りを選びましょう。電話代やバス代・タクシー代に十分なお金を持って歩かずにすむように準備して出かけて下さい。

困った時、緊急の場合

困った時、問題が起こった時に自分ひとりで対処しなければならないような事態は滅多にありません。いつでもアドバイスを求めて下さい。学校の緊急連絡用電話番号もあります。ホームステイ先のファミリーだけでなく、以下の人達もあなたの相談に乗ってくれます。

学校の厚生福祉係（ウェルフェア・オフィサー）と宿泊係（アコモデーション・オフィサー）は学生の直面する殆どの問題をどう解決したらよいか知っています。また、特別な援助やアドバイスをしてくれる地元の組織の連絡先なども持っています。

警察：英国の警察はどんな問題にも親切で、親身なアドバイスをしてくれることで定評があります。どんなことでも遠慮なく質問しましょう。

市民相談所（シチズン・アドバイス・ビューロー）：大きな町には必ずあり、さまざまな連絡先の情報を持っています。法律上のアドバイスが必要な時には特に便利です。ここでの援助やアドバイスは無料です。

D. ホームステイ

多くの学生は、英国で個人の家滞在中は英語を勉強するのに役立つと感じていますし、それ自体が良い経験にもなります。若い学生にとってはホステルにいるより安心感があるでしょう。多くの英国人は外国人学生の「ホスト」を務めるのが好きです。これは、ただ単に余分な収入になるばかりでなく、自分たちの生活を誰か他の国から来た人達と分かち合うのを楽しんでいるからです。「ホストファミリー」は常に両親と子供の組み合わせとは限りません。むしろ、このような人達は自分たちの子供に加えて他の子供たちの面倒を見るには忙しすぎます。例えば、未亡人や、子供たちが勉強で家をあげたり、家を出て独立しているという夫婦は、時間的にゆとりがあるので良い「ホスト」になります。その家の日常の暮らしに適応するように心がけましょう。どちら側にも、些細な不満や誤解が起こりえますが、誠意とユーモアをもって接すれば、問題はすぐに解決できるものです。

個人の部屋

家の玄関の鍵は多分もらえるでしょうが、部屋の鍵をもらうことはないでしょう。個人の

家でベッドルームに鍵を掛ける習慣がないからです。部屋には快適なベッド、ベッドサイド・ライト、机と椅子、そして衣類を収納するスペースがあるはずです。ホストが部屋を掃除しますから、いつも部屋を片付け、きちんと掃除ができるようにしておきましょう。部屋の家具を動かしたり、写真やポスターを貼りたい時は許可をもらいましょう。画鋏、ノリ、セロテープは壁の塗装や壁紙を痛めます。火のついたタバコ、ヘアスプレー、マニキュアなどは自宅にいるときと同様、特に気をつけて扱って下さい。もし何かを壊したり、傷つけた場合はすぐに知らせて弁償を申し出ましょう。自分の電化製品を使いたい場合はどんな物でも使う前に聞いて下さい。英国の電圧は、大概どこでも240ボルトです。

暖房と照明

どの家にもベッドルームに何らかの暖房がありますが、自宅と比べて寒いことがあるかもしれません。その際には掛け布団をもう一枚もらうか、もっと暖房してもらうように頼みましょう。

注意：ガスや電気のヒーターを夜の間に、または外出中に点けたままにしないで下さい。火事の危険があります。また、ガスや電気の暖房の上には何も乗せないで下さい。部屋を出るときには必ず電灯を消して下さい。電気代は安くありません。

食事

食事は普通、その家の習慣に従って家族と一緒にします。宗教上、または他の理由で食べられないものがある場合は申し出ましょう。食事の時間に遅れないように。もし、遅れる場合、または外食する場合は連絡しましょう。

生活上の注意点

ベッドメイキングは自分でしましょう。また、食事の後でテーブルを片付けるというような小さな仕事は手伝うようにします。許可なしに台所を使ったり、勝手に食べ物や飲み物を取ってはいけません。

殆どのホームステイの家庭にはバスルームが1つしかありませんから、シャワーを浴びたり、お風呂に入るのに都合の良い時間を家の人と話し合っ決めてみましょう。バスルームやトイレの器具をどうやって使うのかわからなければ、家の人に説明してもらいましょう。お風呂やシャワー、洗面台やトイレを使った後で綺麗にしておくのは、もちろん言うまでもありません。

シーツとタオルはホームステイの家庭で用意しますが、水泳に行く時は自分のタオルを持って行って下さい。自分の洋服と靴は自分で管理します。洗濯は、家の人は何を使えばよいか教えてくれるでしょうし、自分たちの物と一緒にしてくれるかもしれません。自分で洗濯する場合には、何時どこですれば良いか、どこに濡れたものを干せばよいかを聞きましょう。いつもより洗濯物の量が多いときはコインランドリー（ローンドレット）を利用するように言われるかもしれません。アイロンとアイロン台は借りられるでしょう。

来客・訪問

ホームステイ先に来客がある場合はプライバシーを尊重し、いつも仲間に入れてもらえるとは期待しないで下さい。自分の友達を家に招きたい時には必ず尋ね、どの部屋を使ってよいか、何時に来て帰れば良いかも尋ねましょう。友達は適度に静かにしなければいけない事を理解し、特に夜遅くは家の人々の邪魔にならないように注意しましょう。よその家に招かれた場合のエチケットは学校の先生がアドバイスしてくれます。

留守にする時

外泊する時や、いつもより遅く帰る時は必ず知らせましょう。言わずに留守にすると誰かが心配して学校や警察に連絡するかもしれません。

契約解消(または変更)の場合

ホームステイ先を出たい、または出て行って欲しいという場合は、支払日に、その1週間後に出たい・出て行って欲しいと通知するのが基本的な決まりです。そうしない場合は、特別な場合を除いて1週間分の代金を請求されます。予告について分からない場合は学校の宿泊係り(アコモデーション・オフィサー)にアドバイスを受けましょう。1週間分以上の代金を前払いしてある場合は、決まり通りに予告をすれば、残りの金額は全て返金されることになっています。

英国滞在を成功させる秘訣は、何にでも好奇心を持ち、かつ周りの人に心を開くことです。好奇心を持つということは、(たとえ同意しなくても)他の人達の考えを聞き、理解しようと努め、自国から離れている間は異なった習慣を受け入れることです。周りの人に心を開くというのは、友好的な行動をとり、自分の周辺の社会生活や会話の一端を担うことです。英国滞在中に良い友人ができたなら、その友情は一生続くでしょう。

Copyright: ENGLISH UK.

ENGLISH UK,

219 St John Street

London EC1V 4LY

Tel: +44 20 7608 7960

Fax: +44 20 7608 7961

Email: info@englishuk.com

Web: www.englishuk.com